

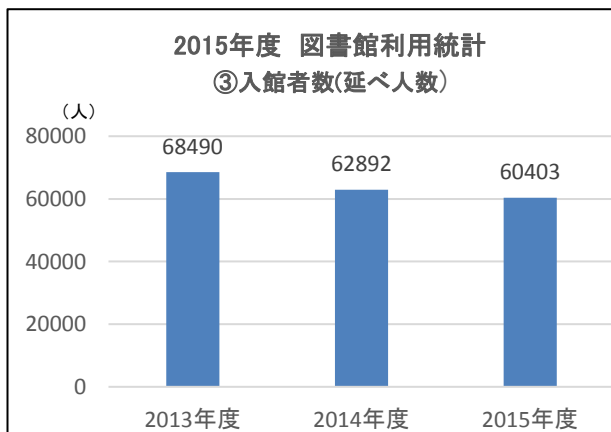
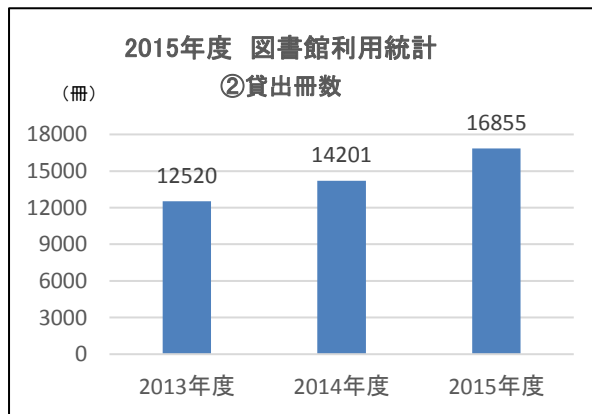
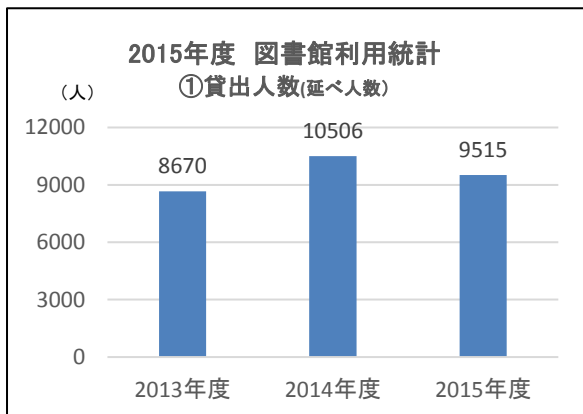
# 2015年度図書館利用統計報告

情報センター運営委員会

2016.5.11

## 各種統計(貸出・入館)

種別	区分	2015年度	2014年度	2013年度	
①貸出人数	学生	8,689	9,624	7,878	
	教員	393	376	321	
	職員	152	176	197	
	学外者	281	330	274	
	合計	9,515	10,506	8,670	
②貸出冊数	学生	情報文化・国際文化	11,297	9,733	7,321
		情報システム学科	3,824	3,001	3,759
		その他(研究生など)	36	3	2
	教員	国際学部	310	324	345
		情報文化学部	403	373	315
		その他(非常勤等)	146	52	59
	職員	426	228	264	
	学外者	413	487	455	
	合計	16,855	14,201	12,520	
	③入館者数(延べ数) ※同一利用者が1日複数回入館した場合、複数回としてカウントする	学生	情報文化・国際文化	35,889	37,272
情報システム学科			21,207	22,410	23,325
その他(研究生など)			71	17	29
教員		専任教員	1,039	657	610
		その他(非常勤等)	100	85	93
職員		201	175	179	
学外者		1,896	1,838	1,869	
合計		60,403	62,892	68,490	



## 各種統計(データベース・機器類・文献複写・その他)

DB名		2015年度	2014年度	2013年度
朝日新聞ログイン数	サイトライセンス 2ID	1,862	1,628	3,312
日経テレコン21検索数	サイトライセンス 5ID	282,045	239,811	196,815
読売新聞ヨミダス検索数	サイトライセンス 1ID	512	-	-
新潟日報ログイン数	サイトライセンス 1ID	1,507	484	1,782
人民日報ダウンロード数	合計	9	103	23
東亜日報アクセス数	合計	26	13	12
イズベスチア/プラウダログイン数	合計	40	21	29
電子ジャーナル(ProQuest)	合計	182	103	609
電子ジャーナル(Cambridge)	合計	28	63	68
電子ジャーナル(CNKI)	合計	17	44	53
電子ジャーナル(EBSCO)	合計	483	117	-
電子ジャーナル(JSTOR)	合計	334	179	247
DB_Mathscinet	合計	26	83	41
DB_Oxford Law Collection	合計	63	-	-
日経BP記事検索サービス	合計	1,774	2,146	7,888
電子情報通信学会論文誌	合計	98	62	204
学術コンテンツポータル(CiNii)	合計	19,373	20,281	41,077
NICHIGAIログイン数	サイトライセンス 2ID	111	260	540
雑誌記事索引集成ログイン数	サイトライセンス 1ID	52	119	-
Japan Knowledgeログイン数	サイトライセンス 1ID	106	213	478
本学リポジトリダウンロード数	合計	1,046	832	-
AV関連機器	合計	2,518	2,863	2,542
PC関連機器	合計	284	212	508
CD-ROM	合計	0	1	3
グループ学習室利用回数	合計	323	301	862
文献複写依頼	合計	340	390	520
貸借依頼	合計	30	19	27
文献複写受付	合計	56	47	81
貸借受付	合計	29	31	30
館内文献複写枚数	合計	1,121	1,708	3,985
ガイダンス数	合計	32	37	37
学外登録数	合計	53	63	59
開館日数	合計	280	276	270

## 2015年度の利用動向と課題

### 貸出・入館

- ・貸出人数は、昨年度比で992人減少した。
- ・一方で、貸出冊数は、2,654冊増加した。貸出冊数は増加し、貸出人数が減少したことから、資料を借用しない利用者が増加したことがわかる。
- ・貸出資料の内容をみると、国際学部のELT関係の資料の利用が年間貸出の上位を占めており、授業との連携が図書館利用の促進に直結していることが明確である。

### データベースなど

- ・データベースでは、国内新聞系の利用が増加した。
- ・2016年度は、雑誌・データベースの見直しの年である。経費を抑制しつつ、学修・研究支援を実現できる本学の教育・研究内容に合ったデータベースの選定を進める必要がある。

### 今後の課題

- ・滞在型図書館を目指して機能を整備しているが、学生会館の新設や学生食堂の改修により、学内に図書館以外に快適な居場所が整備されたことが入館者の減少の一因であると推察される。
- ・また、今年度は、学内に無人貸出用ロッカー・ノートPCが整備されたが、図書館内で特に利用の多い常設PCのある多目的学習室(Learning Commons)の利用が減少するか、利用動向に注目している。
- ・全学的に学修環境が向上することは学生の利益に適っているが、特に「学修」という目的に特化した施設は、学内では図書館だけであるので、図書館の利用促進を図る事が今後の課題である。
- ・利用者増をめざし、授業との連携や学修に直結したイベントや講座を図書館主体で立案して新たな図書館サービスの展開を図る。